

Y25a 日本の大学における天文学シラバス調査(1)：教養課程

鷹野重之（九産大），縣秀彦（国立天文台），Lina Canas（IAU/国立天文台）

日本の4年制大学で開講されている天文学・宇宙科学に関する講義のシラバス調査を行った。本研究では国立・私立大学の1/4を無作為に選び、公開されている全シラバスから科目名検索し、「宇宙」「天文」を科目名に含む授業を抽出した。ただし、シラバス全体から、明らかに自然科学系でないものを除き、さらに教養課程の科目として開講されている73講座のシラバスを調査対象とした。これらのシラバスを精査した結果、科目名に「宇宙」「天文」という言葉が含まれているにも関わらず、内実は地球科学などの内容に終始し、宇宙についての内容を取り扱っていない授業もあることがわかった。一方、天文学的内容を主とした授業であっても、担当する教員の多くは日本天文学会の会員でない場合が約半数に及ぶことがわかった。このことは、大学で教員を適材適所できていないこと、天文学会とは関係のないところで天文教育が進められていることを示唆している。現在、日本の大学で行われている授業内容を検討することで、今後の大学教育の質保証と、国際的標準カリキュラム策定についての議論の出発点としたい。